Chapter 1

キーボードのAが押されたらプレイヤーの移動速度を倍にしてみよう。

まず、キーボードのAが押されたということを記録できるようにする必要があります。 Packman のプロジェクトでキーボードの入力を記録しているプログラムは下記の二のファイルです。

ソースファイル

.\Packman\text{YtkEngine}\Input\text{YtkInput}\text{YtkKeyInput.h}

ではヘッダーファイルを下記のように編集してください。太字になっている部分が変更点です。

```
/*!
 * @brief
                キー入力。
#ifndef _TKKEYINPUT_H_
#define _TKKEYINPUT_H_
namespace tkEngine{
    class CKeyInput{
                enum EnKey
                         enKeyUp,
                         enKeyDown,
                         enKeyRight,
                         enKeyLeft,
                         enKeyA,
                         enKeyNum,
        public:
                 * @brief
                                 コンストラクタ。
                CKeyInput();
                /*!
                 * @brief
                                 デストラクタ。
                 ~CKeyInput();
                 * @brief
                                 キー情報の更新。
                void Update();
                 * @brief
                                 上キーが押されている。
                bool IsUpPress() const
                         return m_keyPressFlag[enKeyUp];
                 * @brief
                                 右キーが押されている。
                bool IsRightPress() const
                         return m_keyPressFlag[enKeyRight];
```

```
* @brief
                             左キーが押されている。
              bool IsLeftPress() const
                      return m_keyPressFlag[enKeyLeft];
               * @brief
                             下キーが押されている。
              bool IsDownPress() const
                      return m_keyPressFlag[enKeyDown];
              *@brief
                             キーボードの A が押された。
              bool IsAPress() const
                      return m_keyPressFlag[enKeyA];
       private
                      m_keyPressFlag[enKeyNum];
              bool
       };
#endif //_TKKEYINPUT_H_
```

続いてソースファイルを下記のように変更します。

```
キー入力
  @brief
#include "tkEngine/tkEnginePreCompile.h" #include "tkEngine/Input/tkKeyInput.h"
\begin{array}{c} name space \ tkEngine \{\\ /*! \end{array}
         \dot{*} @brief
                         コンストラクタ。
        CKeyInput::CKeyInput()
                 memset(m_keyPressFlag, 0, sizeof(m_keyPressFlag));
         * @brief
                         デストラクタ。
        CKeyInput::~CKeyInput()
         * @brief
                         キー情報の更新。
        yoid CKeyInput∷Update()
                 if (GetAsyncKeyState(VK_UP) & 0x8000) {
                         m_keyPressFlag[enKeyUp] = true;
                 else {
                         m_keyPressFlag[enKeyUp] = false;
```

これでキーボードのAが入力されると、 m_{key} PressFlag[enKeyA]に true という値が記録されるようになりました。

では本当にキーボードの A が入力されたら true が設定されるか確認してみましょう。 先ほどの書き換えた部分にコードを下記の黒字のコードを追加してみて下さい。

```
if ((GetAsyncKeyState('A') & 0x8000)
| (GetAsyncKeyState('a') & 0x8000)) {
| m_keyPressFlag[enKeyA] = true;
| MessageBox(NULL, "A ボタンが押されたよ!", "成功", MB_OK);
| else {
| m_keyPressFlag[enKeyA] = false;
| }
```

A を押したらダイアログボックスがでましたか?

では、確認ができたらメッセージボックスを表示するコードは削除してください。

では、正しくキーボードから入力を受け取ることができることが確認できたのでプレイヤーの移動速度を倍にしてみましょう。プレイヤーの移動処理は下記のファイルに記述されています。

ソースファイル

Packman\Packman\game\Player\CPlayer.cpp

CPlayer.cpp を下記のように書き換えてみて下さい。

```
/*!
* @brief プレイヤー
*/
#include "stdafx.h"
#include "Packman/game/Player/CPlayer.h"
```

```
#include "Packman/game/CGameManager.h
/*!
 *@brief
                       Update が初めて呼ばれる直前に一度だけ呼ばれる処理。
voʻid CPlayer∷Start()
★@brief Update 関数が実行される前に呼ばれる更新関数。
yoid CPlayer∷PreUpdate()
            Move();
/*I
/*@brief
度呼ばる。
                       更新処理。60fps なら 16 ミリ秒に一度。30fps なら 32 ミリ秒に一
voʻid CPlayer∷Update()
           m_sphere.SetPosition(m_position);
m_sphere.UpdateWorldMatrix();
CGameManager& gm = CGameManager::GetInstance();
CMatrix mMVP = gm.GetGameCamera().GetViewProjectionMatrix();
const CMatrix& mWorld = m_sphere.GetWorldMatrix();
m_wvpMatrix.Mul(mWorld, mMVP);
m_idMapModel.SetWVPMatrix(m_wvpMatrix);
IDMap().Entry(&m_idMapModel);
m_shadowModel.SetWorldMatrix(mWorld);
ShadowMap().Entry(&m_shadowModel);
}
/*!
*@brief 移動処理。
void CPlayer∷Move()
            if (KeyInput().IsUpPress()) {
          m_position.z += moveSpeed;
                (KeyInput(). IsDownPress()) {
    m_position.z -= moveSpeed;
                (KeyInput(). IsRightPress()) {
    m_position. x += moveSpeed;
                (KeyInput(). IsLeftPress()) {
    m_position. x -= moveSpeed;
*@brief
度呼ばれる。
                       描画処理。60fps なら 16 ミリ秒に一度。30fps なら 32 ミリ秒に一
void CPlayer::Render(tkEngine::CRenderContext& renderContext)
           CGameManager& gm = CGameManager∷GetInstance(); m_sphere.RenderLightWVP(
                       renderContext,
                       m_wvpMatrix,
gm. GetFoodLight(),
                        false,
                       true
           );
 /*I
 *@brief
                       構築。
```

```
*必す先に CreateShape を一度コールしておく必要がある。
*/
void CPlayer::Build( const CVector3& pos )
{
    m_sphere. Create(0.08f, 10, 0xffff0000, true );
    m_idMapModel. Create(m_sphere. GetPrimitive());
    m_shadowModel. Create(m_sphere. GetPrimitive());
    m_position = pos;
}
```

Chapter 2

ジャンプできるようにしてみよう。

Chapter1 のプログラムを改造して、キーボードの A が入力されたらプレイヤーがジャンプするようにしてみましょう。今回編集するプログラムは下記のファイルになります。

ソースファイル

Packman\Packman\game\Player\CPlayer.cpp

ヘッダーファイル

Packman\Packman\game\Player\CPlayer.h

CPlayer.h を下記のように編集してください。

```
*@brief プレイヤー
#ifndef_CPLAYER_H
#define _CPLAYER_H_
#include "tkEngine/shape/tkSphereShape.h"
class CPlayer: public tkEngine::IGameObject{
public:
  CPlayer():
        m_position(CVector3::Zero)
  ~CPlayer(){}
  *@brief
                Update が初めて呼ばれる直前に一度だけ呼ばれる処理。
 void Start() override final;
  *@brief Update 関数が実行される前に呼ばれる更新関数。
 void PreUpdate() override final;
  *@brief
                更新処理。60fps なら 16 ミリ秒に一度。30fps なら 32 ミリ秒に一度呼ばれる。
  void Update() override final;
  *@brief
                描画処理。60fps なら 16 ミリ秒に一度。30fps なら 32 ミリ秒に一度呼ばれる。
  void Render(tkEngine::CRenderContext& renderContext) override final;
  *@brief
   *必ず先に CreateShape を一度コールしておく必要がある。
  void Build(const CVector3& pos);
```

```
*@brief 移動処理。
 void Move();
  *@brief 座標を取得。
 */
 const CVector3& GetPosition() const
     return m_position;
private:
 tkEngine::CSphereShape
                        m_sphere;
                                         //<ワールドビュープロジェクション行列。
                        m_wvpMatrix;
  CMatrix
  tkEngine::CIDMapModel
                        m_idMapModel;
  CVector3
                        m_position;
 tkEngine::CShadowModel m shadowModel;
                                         //!<シャドウマップへの書き込み用のモデル。
                                         //!<移動速度。
                        m_moveSpeed;
 CVector3
#endif
```

プレイヤーに m_moveSpeed という移動速度を覚えるためのメンバ変数が追加されました。

では、続いて tkPlayer.cpp の Move 関数を下記のように編集してください。

これでプレイヤーは A を押すとジャンプするようになりました。ただし地面と衝突判定などは行っていないため、このプレイヤーは A を押さないと奈落の底に落下していきます。次の Chapter ではプレイヤーが落下しないようにプログラムを変更してみます。

Tips

ゲーム制作において、プレイヤーの挙動はそれっぽく見えれば OK なのでまじめに物理 計算を行う必要があるわけではありません。ですが先ほどのジャンプ処理を重力を考慮 してプログラムを書いてみましたので、せっかくですのでご紹介します。変更点は

```
CPlayer の Move 関数のみです。
void CPlayer::Move()
          //Moveが呼ばれる感覚は16ミリ秒で固定で考える。static const float deltaTime = 1.0f / 60.0f; //速度の単位をm/sに変更する。m_moveSpeed.x = 1.f; //XZ平面でm_moveSpeed.z = 1.f; if (KeyInput().IsAPress()) {
                                                      //XZ平面での移動速度。
                     //ジャンプ。
//初速度を2m/sで与える。
m_moveSpeed.y = 2.0f;
           CVector3 add (0.0f, 0.0f, 0.0f);
          add = m_moveSpeed;
add. Scale(deltaTime);
if (KeyInput().IsUpPress()) {
                     m_position. z += add. z;
           if (KeyInput().IsRightPress()) {
                     m_position.x += add.x;
           if (KeyInput().IsLeftPress()) {
    m_position.x -= add.x;
          m_position.y += add.y;

//速度に重力加速度の影響を与える。

/重力加速度 9.8m/s^2

static const Cvector3 gravity(0.0f, -9.8f, 0.0f);
          CVector3 addVelocity = gravity;
addVelocity. Scale(deltaTime);
m_moveSpeed.y += addVelocity.y;
変更を加えたプログラムを下記のパスに上げました。Debug モードで実行すると処理が
遅いのでもっさりした挙動になるので、Release モードで確認するといいでしょう。
(影も壁に落ちるように改良してます・・・)
¥¥mmnas01¥student¥GC2016¥02_授業¥ゲーム PG I ¥Lesson02¥Packman_JumpGravity
```

Chapter 3

地面に立てるようにしてみよう。

Chapter 2 でパックマンがジャンプできるようになりましたが、A ボタンを押さないとパックマンは地面を突き抜けて自由落下していたはずです。ではこれを地面に立てるように改造してみましょう。地面の位置は Y 座標で 0 の位置にあるので、パックマンの Y 座標が 0 より小さくなれば落下を行わないようにすれば地面に立てるはずです。ではプログラムを見ていきましょう。

今回編集するソースは下記のファイルになります。

ソースファイル

Packman\Packman\game\Player\CPlayer.cpp

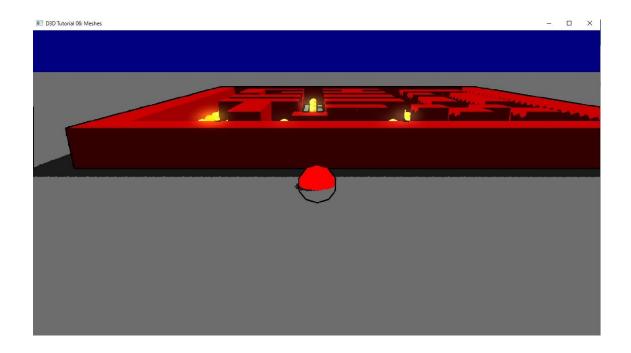
Packmap\Packman\game\Camera.cpp

黒字の部分が今回変更した部分になります。

さて、この変更でパックマンは地面をすり抜けて落下しなくなりましたが、実はまだ問題が 残っています。カメラのプログラムを下記のように書き換えてみてください。

CCamera.cpp

カメラが下記の図のようにプレイヤーの後方に移動したはずです。



実はパックマンの座標は球体の中心を指しています。そのため Y 座標 0 で判定を行うとパックマンが地面にめり込んでしまいます。つまり判定する Y 座標をパックマンの半径分押し上げてやればめり込まなくなるはずです。ではめり込まないようにプログラムを改良し

てみましょう。パックマンの半径は0.08とします。

CPlayer.cpp

いかがでしょうか?パックマンが地面にめり込まなくなったはずです。